

伊豆山神社



しくみ

- 日吉神社 369.55km- 伊豆山神社 - 浮島稲荷神社 369.55km
- 蓮成寺（若宮寺跡）366.98km - 伊豆山神社 - 伊豆大権現神社 366.98km

詳細

- 日吉神社 369.55km- 伊豆山神社 - 浮島稲荷神社 369.55km

伊豆山神社

祭神/

伊豆山神（天忍穗耳尊・あめのおしほみみのみこと）

拷幡千千姫尊（たくはたちぢひめのみこと）

瓊瓊杵尊（ににぎのみこと）

創建の年代は不詳だが、社伝によれば孝昭天皇の時代（紀元前 5 世紀～紀元前 4 世紀）とされる。古くは伊豆大権現（いずだいごんげん）と呼ばれた。

修験道の始祖とされる役小角は伊豆大島へ配流された折に走湯山に堂を建立し修行した。伊豆山三所権現は、法躰は千手観音の垂迹、俗躰は阿弥陀如来の垂迹、女躰は如意輪観音の垂迹とされる。また、空海（弘法大師）が修行した伝承もあるように、多くの仏教者や修験者が修行を積んだ霊場であった。承和 3 年（836 年）、社殿は現在「伊豆山神社」がある地へ移された。

『吾妻鏡』には、平治の乱の後、伊豆国に流された源頼朝が、治承 4 年（1180 年）、伊豆山権現に源氏再興の祈願をしたとの記載がある。その後、鎌倉幕府を開いた頼朝から、伊豆山権現は多大な寄進を受け、



「関八州の総鎮守」とされて、歴代の将軍の崇敬を受けたとされる。

室町時代には、湯治とともに伊豆山権現を参詣する者が多くみられるようになった。

明治維新の神仏分離令により寺を分離して伊豆山神社と称するまでは、天台宗や真言宗と関わりの深い神仏習合の神社であり、現在地へ遷座して以降は主に、高野山真言宗である般若院の別当寺が伊豆大権現と等しく祀られていた。しかし、勢力間の主導権争いなどによって度々祭神や由緒が改竄されたこと地区全体が有史以来数度にわたって沈下し、山麓の摂社や末社、門前町の一部などは海底遺跡化したこと、神仏分離の混乱や数度にわたる火災などで史料が逸失したこと、などから山の歴史には不明点が多く、調査・研究が待たれる。

静岡県熱海市伊豆山上野地 708-1



日吉神社

不明 京丹後市弥栄町木橋

浮島稻荷神社

祭神は「宇迦之御魂命」「天熊之大人神（合祀神）」。神池の大沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数 32 あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505 年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳 9 年（681）役の小角（役の証覚・役の行者）が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60 余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稻荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行なわれた。建久 4 年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。

山形県西村山郡朝日町大沼

備考 大行院最上家（宮司）系図の脇書に 730 年に「**大沼社**を南西の丘に移す」記述がある。



備考

伊豆山神社（伊豆大権現）は頼朝が源家の再興を祈願し庇護していた。朝日町大沼の浮島稲荷神社も源家の祈願所。義経・弁慶一行が滞在した伝説もある。京丹後市の日吉神社の由緒はわからないが、同時期に建立されたのだろう。頼朝の側近で寒河江荘を領地としていた大江広元の作ったしくみといえる。浮島稲荷神社別当の最上家も元々は大江広元の孫が初代。下流の集落大谷には同じ祖先の出雲系土師氏（天穂日命や野見宿禰が祖）を持つ菅原道真の側室一統が移り住んでいる。

伊豆大権現の桜（朝日町）

■ 蓮成寺（若宮寺跡） 366.98km - 伊豆山神社 - 伊豆大権現神社 366.98km



伊豆大権現神社

伊豆国の伊豆大権現（静岡県熱海市の伊豆山神社※明治に改称）の分霊を勧請したとされる。創建年代は不詳だがご神木のエドヒガン桜の樹齢はおよそ 700 年とされる。ご神体には「伊豆大権現一字為□□、万年豊穰、安全火盗消除、宮宿村、鈴木長吉」他の御神札には「奉勧進伊豆大権現、諸大眷属開眼、降魔□□、慶応三年丁卯年」と墨書されている。例祭は 4 月 23 日（旧暦 3 月 15 日）。火伏、盗難よけ、安産の神として厚く信仰されている。

山形県西村山郡朝日町宮宿 1114-6



若宮寺

正平年間（1346～70）五百川若狭が弘法大師の靈感により大日如来を西船渡（現蓮成寺）に祭り、一寺を建立したと伝わります。慶長 5 年（1600）に上杉勢の五百川進攻の際に全焼。同 17 年（1612）に配下としていた山野辺城主山野辺右エ門義忠（最上義光四男）が現在地に移転しました。第一世尊孝法印は若宮寺中興の名僧と謳われ、寺の復興に活躍しました。

山形県西村山郡朝日町三中 244

蓮成寺（若宮寺跡）

寺の過去帳によると、寛文元年（1661）に法明寺の僧、日延上人が江戸雑司ガ谷に蓮成寺を開いたとあり、300 年後の明治 28 年（1895）に現在地の西船渡に移転しました。日蓮宗。元は若宮寺があったが、慶長 5 年（1600）の出羽合戦の折に上杉家により焼き討ちされた。

山形県西村山郡朝日町三中 635



参考

大朝日岳（朝日連峰・朝日岳）

磐梯朝日国立公園の朝日連峰主峰。『三大実録』には「出羽国の白盤神と須波神に従五位下を授けた」とあり、須波神は朝日岳のことで龍蛇神の諏訪神とされる。大円寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると朝日嶽大富権現は、大富権現・女躰権限・子守権現の三処であり、本地佛は、大富権現は弁財天（初頭神は大山祇神）、女躰権現は大日如来（木花咲耶姫命）、子守権現は正観音で大山祇神の娘溝織姫命で

あるとする。役の小角が出逢った女神は女躰権現。朝日嶽信仰は執権北条時頼（1246～56）によって千年封じされたまま現在に至る。山形県西村山郡朝日町。

備考

大富権現の「富」は出雲族の富族を表すのでは。朝廷が位を授けたのは平安時代の貞観地震の翌年のこと。過去に朝日岳に対してやましい事実があったことを裏付けられる。



備考

朝日町の社寺については「朝日町エコミュージアム」のホームページで詳しく紹介されていて大変参考になった。また、ちょうど刊行された『朝日町史』も購入でき学術的な情報も得られた。町立図書館には郷土本コーナーもある。

「朝日嶽信仰千年封じ」の歴史が気になって調べていたら、朝日町に伊豆大権現神社があり樹齢 700 年の桜の御神木があることがわかった。さっそく本山の熱海市の伊豆山神社にコンパスを当ててみた。すると、最上川を挟んだ蓮成寺と同距離だった。ただ、蓮成寺の歴史は明治からと新しい。がっかりしたが、よく読むとそこは 400 年前までの若宮寺の跡地だったことがわかった。真言宗若宮寺は正平年間（1346～70）の開創。1600 年、慶長出羽合戦の折、上杉家により焼き討ちされ、後に八ツ沼城近くに再建している。

執権（1246～1256）北条時頼は「奥羽天台宗寺院廃滅令」を発し、松島の円福寺（現瑞巖寺）をはじめ、東北の多くの天台宗寺院を滅亡させた。天台系だった朝日嶽信仰の千年封じも同じ理由だろう。当初、朝日町の伊豆大権現神社の桜は、伊豆=北条家で、千年封じの記念樹かと安易に考えていた。

しかし、若宮寺は千年封じのおよそ 100 年後の室町時代の開創。その伊豆大権現から気を引くために若宮寺と同距離に分霊を祀ったはずなので、源氏の流れをくみ、元々は、伊豆大権現を本山に持つ寺院だろう。伊豆大権現（熱海・伊豆山神社）も朝日町の浮島稲荷神社も源家の祈願寺であり、伊豆大権現は、朝日嶽信仰と同じ三所権現を持つ役の小角開祖。また若宮寺の名前も源氏の守護神八幡神の「若宮」。伊豆大権現の御神木の桜は、700 年前の若宮寺開創の記念樹とも言える。